

平成 29 年(2017 年)9 月 19 日

記者発表資料

野洲市
滋賀県 共同発信

今月のイチオシ「花と緑の滋賀シリーズ」

野洲市・三上 「ずいき祭」について

野洲市三上のずいき祭は五穀豊穡を感謝して毎年 10 月第 2 月曜日（体育の日）に開催される祭りで、里芋の茎を用いて作った「ずいき御輿」を奉納することから、この名で親しまれています。

古くは「若宮殿相撲御神事（わかみやどのそうもくごしんじ）」と呼ばれ、相撲神事を主体とした祭りで「ずいき御輿」の正面に土俵を作り、角力猿（すもうざる）の人形を飾ります。

ずいき祭は三つの宮座（祭祀組織）により行われ、祭りの当番である頭人（とうにん）は各座から選ばれます。永禄 4 年（1561 年）から今日まで当時の宮座が変わることなく維持され、その祭礼記録が残されており、470 年以上の歴史と伝統を持った祭りであることから、平成 17 年 2 月に国の「重要無形民俗文化財」に指定されました。

歴史と伝統ある祭りであり、5 基並んだ御輿は壮観です。皆さんぜひお越しください。

『ずいき祭り』

日時：平成 29 年 10 月 9 日（月）11：00～

場所：御上神社 拝殿（野洲市三上 838）

10:00 各自治会館からずいき御輿の行列が出発
御上神社楼門前に並べられ、お祓いの後、拝殿に据えられる
11:00 祭儀開始
※詳しい日程は下記を参照ください。

【問合せ】

野洲市 広報秘書課

（電話 077-587-6037、FAX 077-586-2200、メール hisyo@city.yasu.lg.jp）

【今月のイチオシとは】

知事定例会見で県内市町の地域資源を 1 つずつ紹介。ねらいは、

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 各市町の情報発信力の向上 | 2 より季節感のある話題提供 |
| 3 県内各地域、ひいては県全体のブランド力の向上 | 4 県と市町の情報発信ネットワークの構築 |



▲ずいき御輿

【みどころ】

祭りは御輿を奉納するだけではなく、第2月曜日（平成29年度は9日）の5日前からそれぞれの神事が行われますが、中でも特徴的な神事をご紹介します。詳細な内容については、別途配布する資料を参照ください。

●『ずいき刈り・お菓子盛り』

日程：2日～1日前 時間：各自治会による 場所：各自治会の畑・各自治会館

早朝から各自治会の皆さんが集まって、御輿に用いる上質な芋茎（ずいき）を刈り取り、御輿作りを行います。高い技術で芋茎を適当な長さに切って御輿の胴・屋根・下り棟を付けます。栗で作った土俵に木彫りの角力猿の人形を置き、ずいきの鳥居を立てるなど、自然の素材を用いて精巧に作られます。



▲お菓子盛り

●『ずいき祭』

日程：当日 時間・場所：午前 10 時・各自治会館～御上神社楼門前～11 時・拝殿

午前 10 時に各自治会館から御上神社の太鼓の音を合図に「ずいき御輿」が出発。

頭人や各自治会の実行委員などで構成された行列を伴いながら、5 基の御輿が御上神社楼門前に並べられ、お祓いを受けた後、拝殿に据えられ、午前 11 時から祭儀が行われます。



▲ずいき御輿の行列



▲拝殿に据えられたずいき御輿

●『芝原式』

日程：当日 時間：午後 7 時～（1 時間弱） 場所：桜門前

御上神社の太鼓の音で、各座の頭人が御上神社に社参し、沈黙の行を行います。

無言の中、厳粛に行われる一連の行事は、中世の宮座行事の姿を現代に伝えているといわれています。

中でも中世の神事芸能の名残をとどめ、猿田彦の面をつけて鉾を持ち独特の足さばきをしながら鼻くそを放つ仕草をする猿田彦の登場や、勝敗を決めず、相撲神事として行われる子供相撲の取組は特徴的なものとなっています。

【あわせてオススメ】

◎御上神社に関連した企画展の開催について

ずいき祭の会場となる御上神社は来年、平成 30 年に遷座 1300 年を迎え、本殿は国宝に指定されており、数多くの文化財が伝えられる滋賀県を代表する神社です。

遷座 1300 年を記念し、野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）にて、秋期企画展「近江の古社 御上神社の歴史と文化―遷座 1300 年記念―」が開催されます。本企画展で

は、このほど修理が完了した木造狛犬（重要文化財）をはじめ、社蔵の文化財を一堂に展示し、その歴史や文化を紹介します。ずいき祭と併せてぜひ本企画展にもお越しください。

秋期企画展「近江の古社 御上神社の歴史と文化―遷座 1300 年記念―」

開催期間：平成 29 年 10 月 7 日（土）から 11 月 19 日（日）

※月曜日（10 月 9 日は開館）、10 月 10 日は休館

時間：9：00 から 17：00 （入館は 16：30 まで）

場所：野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館） 野洲市辻町 57 番地 1

入館料：大人 200 円、高大生 150 円、小中生 100 円

20 名以上の団体は各 50 円割引

野洲市民は入館無料

身障者手帳等をお持ちの方とその介護者 1 名は入館無料

関西文化の日（11 月 18 日・19 日）は全てのご来館者様が無料です！

国指定「重要無形民俗文化財」

三上のずいき祭

10月 第2月曜日（体育の日）



三上のずいき祭は里芋の茎くきを用いて作った「ずいき御輿みこし」を奉納することから、この名で親しまれています。古くは「若宮殿相撲御神事わかみやどのすもうごしんじ」と呼ばれ、相撲神事を主体としたお祭りで「ずいき御輿」の正面には土俵をつくり角力猿すもうざるの人形を飾ります。

この祭りは長之家ちやうのや、東座ひがしざ、西座にしざの三つの宮座（祭祀組織）により行われ、祭りの当番である頭人とうじんは各座二人が務めます。永禄4年（1561年）から今日まで当時の宮座が変わることなく維持され、その祭礼記録が残されており、その記録の冒頭に天文10年（1541年）から中断していた祭りを再興したことが記されており、470年以上の歴史と伝統を持つ祭りであります。平成17年2月21日に国の「重要無形民俗文化財」に指定されました。

祭りは10月9日から14日にかけてそれぞれの神事が行われ、頭人はその間ご奉仕致します。また頭人は「ずいき御輿」奉納のため、ずいき芋を丹精込めて育てます。

なお、現在は10月14日の祭り当日を10月第2月曜日（体育の日・祝日）とし各々の神事日程もこれに合わせて順次行われます。

甘酒神事 あめのうおまつり〔献江鮭祭〕（5日前）

各頭人は御上神社に社参、酒、甘酒、めずし（タデずし）、青菜漬などを献饌。
鯨（あめのうお）を社前に供え、神事の無事を祈願します。
なお、一般の各家庭でも甘酒をいただきお祝いを致します。

湯立て式（3日前）

各頭人は早朝神社から宮水を頂き、自宅にて釜で湯を沸かします。
神職が笹を使って釜の湯で屋敷の周囲を清め、御輿の上に立てる
神を床の間において神移しを行います。



ずいき刈り（2日前）

早朝より親戚・知人が集まって、御輿に用いる上質な芋茎を刈り取り
洗って御輿づくりの準備をします。御輿の一部をも作り始めます。

お菓子盛り〔献饌としてのずいき御輿づくり〕（1日前）



前日に引き続き御輿づくりをします。芋茎を適当な長さに
切って御輿の胴、屋根、下り棟を付けます。
これには高度な技術が必要であります。
屋根には粟と菜種を吹き付けた神紋を付け、胴部の正面
には飾り棚を作り、粟で囲った土俵に角力猿の人形を置き、
ずいきの鳥居を建てます。

他の三面にも造花をあしらった飾り棚を付けます。台座部
は柿で根締めし、軒下部は紅白の神紋をつけ、台座四隅に
鶏頭の花で染めた帆立てを添え麻穀の松明を置きます。
上部には湯立ての時に祀った神を立て鶏頭の花でその周囲
を飾ります。完成された御輿は座敷の中央に据えられ、
それを囲んで祝宴を行います。



頭渡し（1日前）

翌年の頭人を確認する儀式で、午後7時に頭人、翌年の頭人であるすけとうじん介頭人、翌々年の其そのすけとうじん介頭人がそれぞれ
提灯の明かりで宮座の公文宅に集まり、杯を交わし引継を致します。
これらの儀式は総て無言で厳粛に行われます。

ずいき祭（10月第2月曜日・午前11時～）

午前10時、神社の太鼓の音を合図に各頭人宅から「ず
いき御輿」が出発します。

警固を先頭に頭人、親戚、知人、隣人などが行列して
社頭に勢揃いし、拝殿の所定の場所に据えられ、祭儀
が行われます。5基が揃った景観は見事なものであり
ます。



芝原式 (10月第2月曜日・午後7時～)

芝原式は祭の夜、楼門前でされます。

午後6時、神社の太鼓の音で、各座頭人は供人に酒、めずし、青菜、鮎鮓、花びら籠を持たせ、提灯の明かりで社参、齊館に着座し沈黙の行をします。

宮仕の準備完了のあいさつで総公文を先頭に宮司、公文、頭人、定使^{じょうずかい}が神殿に向かってコの字型に着座し、かがり火と提灯のあかりで5つの所作が無言で厳粛に行われ、中世の宮座行事の姿を伝えるとともに、神との饗宴の古式を今に受け継いでいます。

1. 差状を渡す

頭渡しで引継が行われた来年の頭人の名前を記入した書付を各座の公文から総公文に渡します。これで来年の頭人が確定したこととなります。



2. 花びら餅を配る

牛の舌の形をしているので「牛の舌餅」とも言われています。

宮仕は饗盤^{こうばん}に載せた花びら餅を、青竹で編んだ花びら籠に入れ、各座の公文に配膳されます。

3. 猿田彦の登場



宮仕が、神と人との間をとりもつ神、猿田彦として鼻高面、つまり猿田彦の面をつけ、木鉾^{きぼこ}を持って登場します。足を後ろに蹴り上げながら座の中心を3回廻って各公文のところで止まり、木鉾で突き鼻くそを放つ仕草をし、公文はそれを受けて一礼をします。

この一連の所作は中世の「王の舞」の流れを汲む芸能と言われ、中世の神事芸能の名残をとどめると考えられます。

4. 直会

続いて神と人とが酒を酌み交わす共食、直会に入ります。各座毎に各座の定使が給仕役を務めます。肴にめずし、青菜漬、するめ、東座のみ鮎鮓が出され、神酒を盃に注いで宴会が行われます。

5. 子供相撲

力士は東座、西座それぞれ上下から小相撲1人、大相撲(青年)1人を出し、東西の上同士、下同士に分かれ4組の相撲をとります。

大相撲は長いまわしを公文の使いが投げ、持っている刀でたぐり寄せて腰に巻き、刀を行司に預けてから相撲が始まります。これらの取組は勝負はつけず、お互いに「ヤア」「トウ」と掛け声と同時に腕を組み合わせるのみで、まさに相撲神事として奉納されます。



相撲を最後に一同齊館にもどり、芝原式は終わり、6日間に及ぶ「ずいき祭」も幕を閉じます。

みかみ 御上神社



御祭神は天之御影神あまのみかげのかみ（天照大御神の御孫）です。

三上山を神体山とし、近江の古社として名高く、鎌倉時代の国宝本殿をはじめ数々の重要文化財を有しています。

起源は第7代孝霊天皇6年6月18日に御祭神が三上山にご降臨になり、養老2年、現在地に御社殿をご造営遷祀され、大正13年には官幣中社に列せられました。

金工鍛冶の祖神、忌火祭（お火焚祭）、農業神（ずいき祭）、昭和天皇即位の大嘗祭悠紀斎田、俵藤太の「むかで退治」に因む弓矢祭等々、湖南地方における工業、農業の祖神として広く尊崇を集めています。

三上山（近江富士）



標高432mの三上山は、その美しさから「近江富士」とも呼ばれ、また俵藤太の百足退治伝説でも知られています。

御上神社の神体山であり、頂上には巨石の磐座いわくらがあり、奥宮が祀られています。

ハイキングに適した山として休日には登山客で賑わっています。

たですし（めずし）



たですしはずいき祭の神饌としてあるいは直会に使われます。主な材料は野洲川などの川辺に自生しているたで（蓼）草を土用の最中に刈取り、陰干しをして手早くもみ、粉にして保管します。すし飯は普通のすし味と同じようにして、ちりめんじゃこを酢と砂糖に混ぜてなじませ、少しご飯が冷めた後、たでの粉末を振りかけて出来上がりです。ピリッと辛さの残る食感です。

ご案内

電車の場合

J R 琵琶湖線野洲駅より
南口から滋賀交通バスで
御上神社前下車すぐ

車の場合

名神高速栗東ICより
国道8号線を近江八幡方面へ約4km
（無料駐車場有り）



ずいき祭保存会

御上神社

滋賀県野洲市三上838 御上神社内 TEL 077-587-0383